

「白門」に学ぶ

外国人留学生

マレーシア

リム・ワンシン

さん

|| 商学部2年

「お父さんから日本の話をよく聞いていました。その中で印象的だったのが『日本は効率化されている』という話で、その話を聞いて自分の目で見て、確かめてみたいと思いました」

日本への留学の目的をこう話すのは、マレーシアから留学している商学部2年のリム・ワンシンさん。現在、中央大学には、マレーシアからの留学生が20人程度在籍しているそうで、リム・ワンシンさんはその一人だ。

父親の影響で日本に留学

リムさんは当初、留学先を中国、台湾、アメリカ、日本のいずれかと考えていたという。その中で日本を選んだのは、日本の企業との繋がりのある仕事をしていた父親の影響があったからだ。リムさんはマレー語、英語、中国語の3ヶ国語を操ることができる。マレーシアの学校のカリキュラムで習うことになっているので、できるようになったという。さらに、「他

の言語を習いたい」と思ったのも、日本留学の理由になったというから、いまや4ヶ国語に堪能な「語学の達人」というしかない。

大変だった受験勉強

リムさんは2009年に来日。1年間、日本語学校で勉強し、日本語の習得に努めた。その間に、大学受験の勉強もして、2010年に中央大学商学部に入学した。

「日本に来て受験勉強が1番大変だった」と当時を振り返る。中央大学を選んだ理由は、日本語学校の先生からの薦めがあったからだ。また、学部の選択は、父親の仕事の影響もあって商学部を選んだ。

リムさんは現在2年生。日本とフィリピンの子供たちの相互理解を深める活動をしている日比交流サークル『PocoPoco』に所属している。一方、イギリスパブでアルバイトしながら、充実した大学生活を送っている。

苦手な和食で学食が悩み

だが、大学生活で「唯一苦手なものがある」。それは学食だ。「和食が苦手なんです。中大の食堂のメニューは食べられるけど、毎日駄目。だから、おにぎりとかパンを買って食べています」と話す。しかも「おにぎりはシーチキン以外食べられません」と昼食には頭を痛めている。

そんなリムさんがお薦めのマレーシアは、ジョホールバル。「海が綺麗です。だから海は見たほうがいい」と強調。「あとは食べ物が美味しい。マレー系、中国系、インド系があります」と観光案内してくれた。

日本の「効率化」を実感

「留学は違う文化に触れることができるから楽しい」と話すリムさんは、日本留学の目的のひとつだった「効率化」については、自らの体験や自分の目でみた印象を含め、「やっぱり効率化されている」と納得した

様子だ。

「どこに行っても日本は早い。マレーシアはずっとゆっくり」と生活のリズムの違いを指摘したうえで、「日本人は行動が早いし、行列によく並ぶ」と日本人の行動パターンを観察。「あと、日本はどこでも水が出る」と語り、日本の効率化を実感していた。



日本語を含め4カ国語を話すリム・ワンシンさん

リムさんはいずれマレーシアに帰ることを考えているが、まずは「日本の企業に就職して、経験を積んでから帰りたい」と話す。「将来は貿易の仕事。国際市場で力を発揮してみたい」と将来を見据えている。
(学生記者 上田雄太 Ⅱ 大学院文学研究科修士2年)

国際寮 *CHUO University International-House*

2011年3月に中央大学で初めての国際寮がオープンしました。いろんな場所や空間を通じ、コミュニケーションを図ることを可能とした、中央大学初めての国際寮。日本全国から入学する新入生のみならず、私費留学生や研究生、そして、中央大学協定校から派遣される交換留学生と一緒に育む“国際感覚”。

寮の入居者が助けあい生活をしていくことにより、中央大学の校風の一つである、「家族的情味」を醸成させていきます。



お問い合わせ 中央大学国際交流センター

TEL 042-674-2211 FAX 042-674-2214
E-mail c-house244@tamajs.chuo-u.ac.jp

住所／東京都日野市多摩平3丁目1番8号
交通／JR中央線 豊田駅 徒歩10分